

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道 江差病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	-	ド透未訓	救臨感へ災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,228,732	12,101	-	第2種該当	10:1

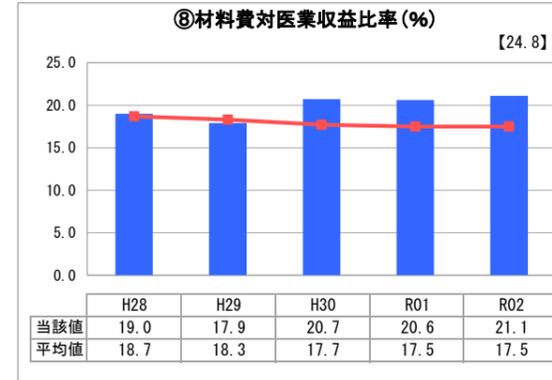
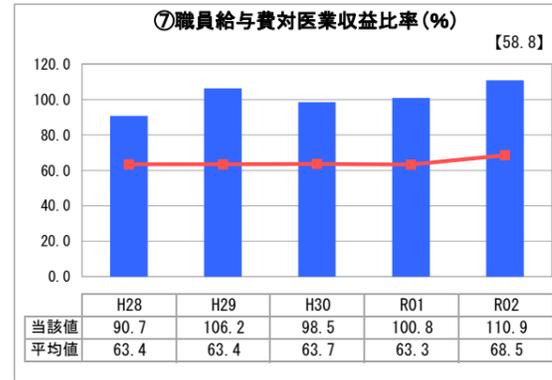
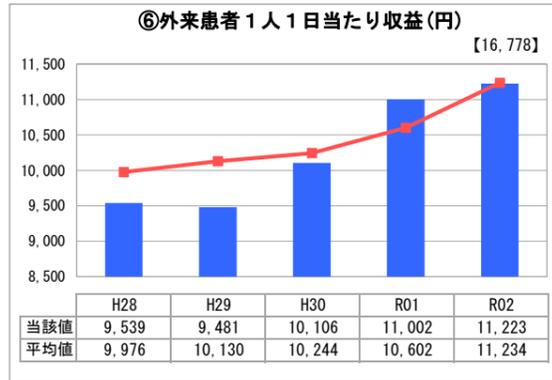
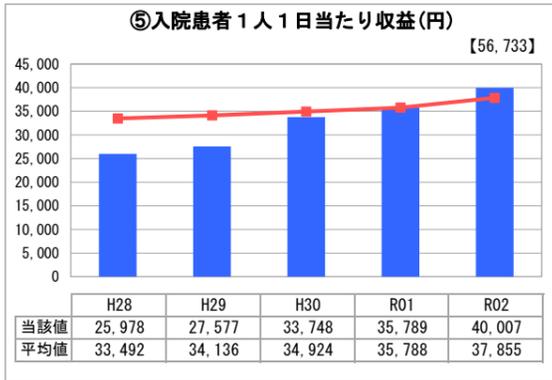
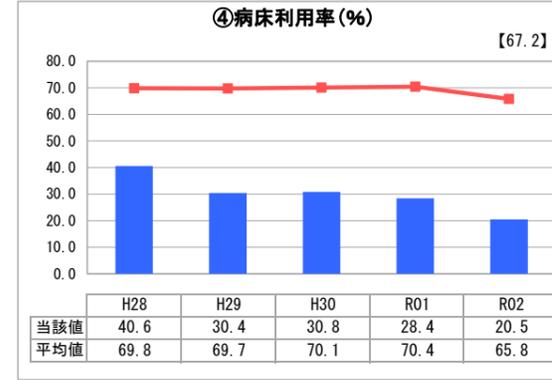
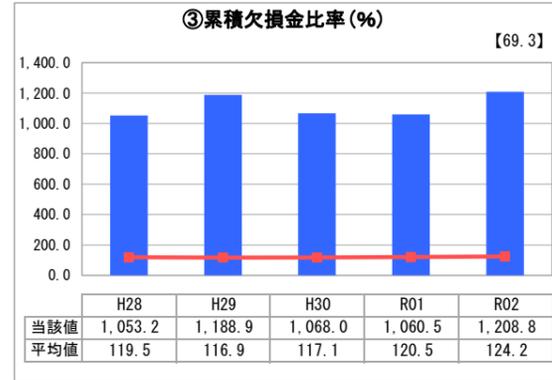
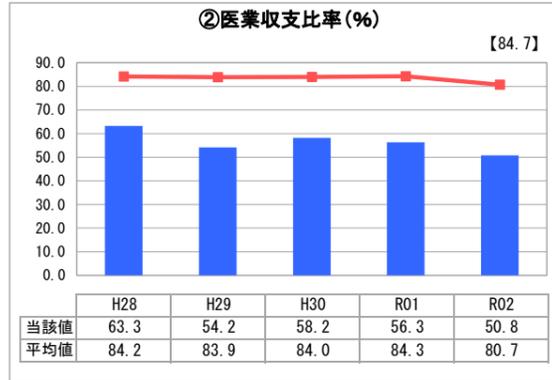
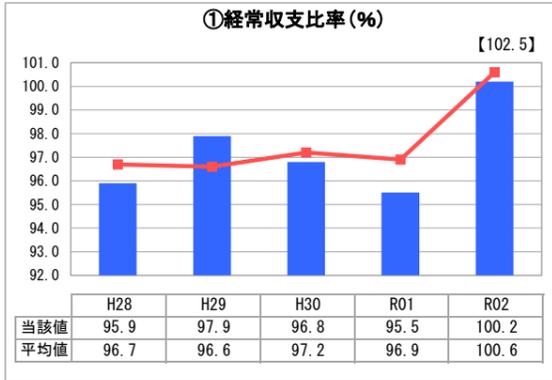
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

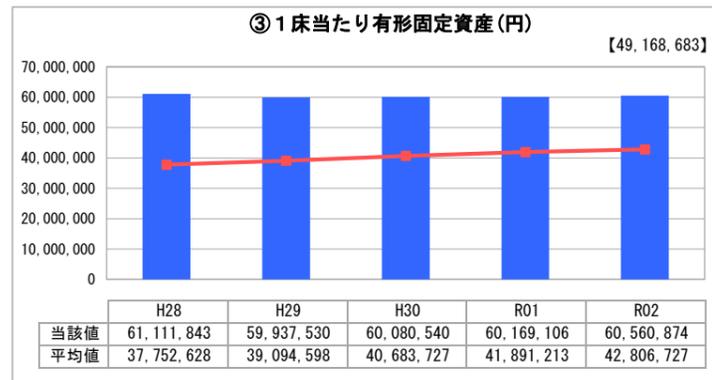
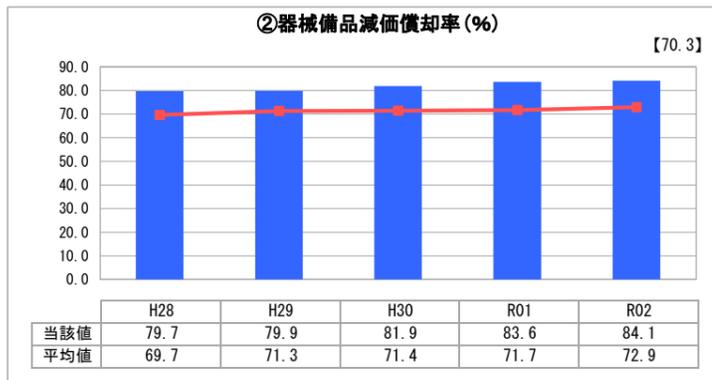
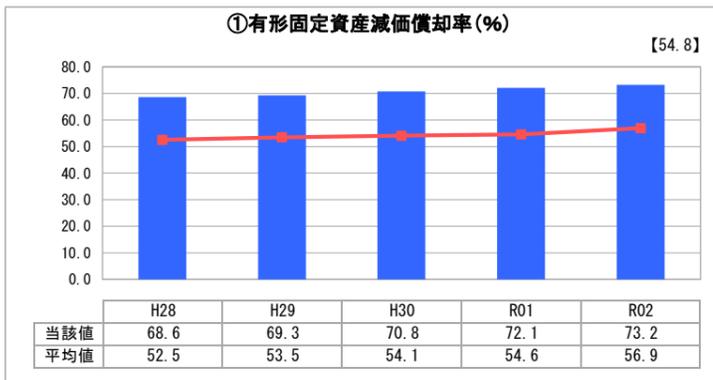
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
146	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
48	4	198
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
108	-	108

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

南檜山第二次医療圏における地域センター病院として、圏域で唯一の精神科医療の提供及び人工透析を実施するとともに、救急医療機関として輪番制に参画していることや、災害拠点病院の指定を受け、災害発生時にはDMAT（災害派遣医療チーム）の派遣体制を整備するなど、救急医療や災害医療の中心的な役割を担っている。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、地域の感染患者の受入を行った。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、新型コロナウイルスの影響により入院・外来患者数が減少し収益の減少はあったものの、新型コロナウイルス感染症緊急包括交付金により医業外収益が増加し、前年度と比べ比率は大幅に上昇した。

③累積欠損金比率については、新型コロナウイルス感染症の影響による医業収益が減少したため比率は上昇した。

⑤入院患者1人1日当たり収益については、平成30年度から1日当たりの入院単価の高い地域包括ケア病床が稼働したため上昇傾向にあった。令和2年度は、入院単価の高い新型コロナウイルス感染症患者を受入したことにより、収益が上昇し全国平均を上回った。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、有形固定資産の耐用年数を過ぎてからも使用しており老朽化が進んでいることから、前年度と比べ若干上昇している。

②機械備品減価償却率については、平成28年度の高度医療機器の更新により一旦下落し、その後は経年により上昇傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症予防のために機械設備を購入したことから、前年度とほぼ同程度となった。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率及び④病床利用率は新型コロナウイルス感染症の影響により下落したものの、⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益は前年度と比較して、上昇傾向にあることから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の充実を図り、患者数を確保していくとともに、効率的な費用の執行が必要となる。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を大幅に経過した医療機器等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道 羽幌病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド透訓	救臨へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,228,732	8,702	第2種該当	第2種該当	10:1

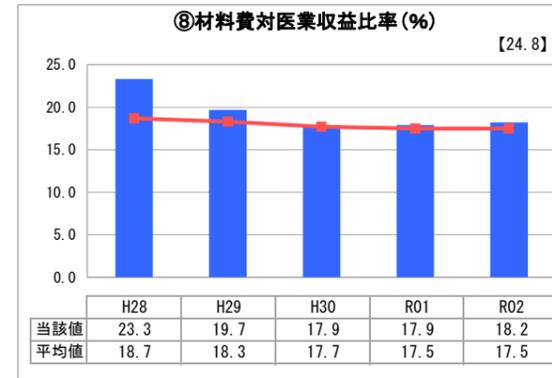
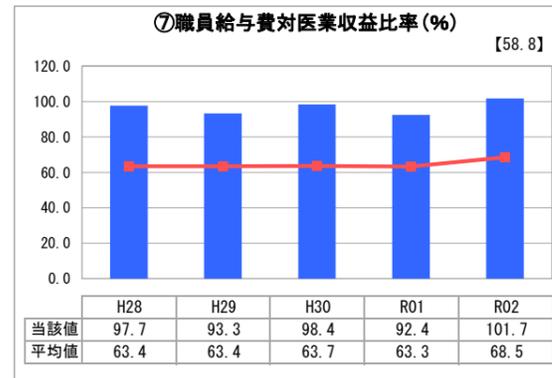
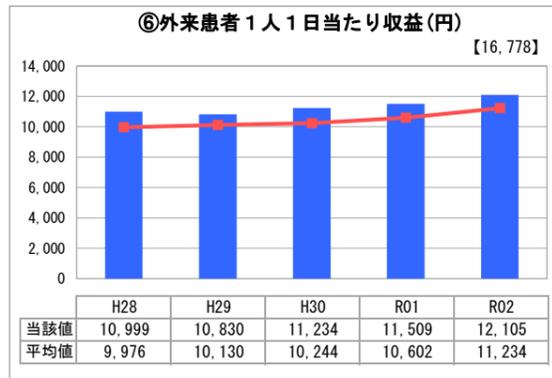
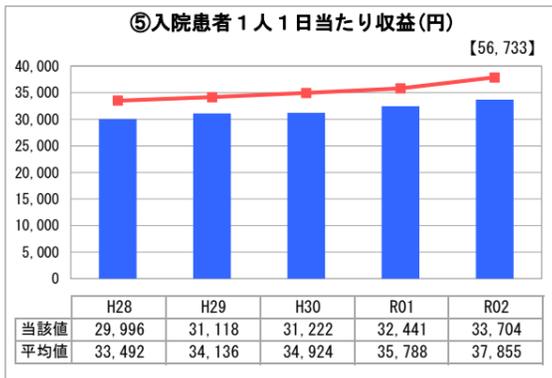
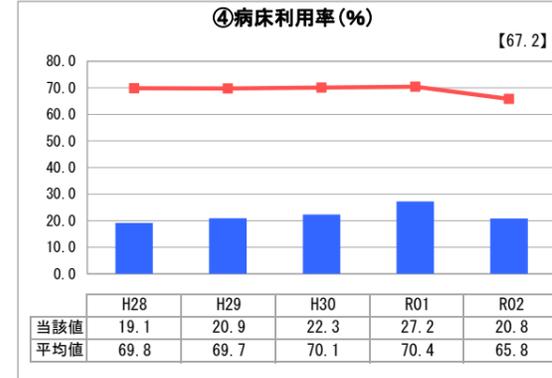
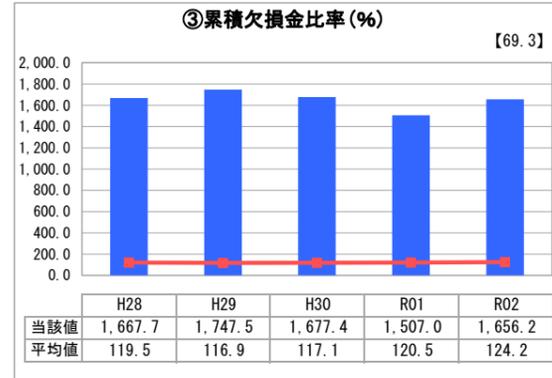
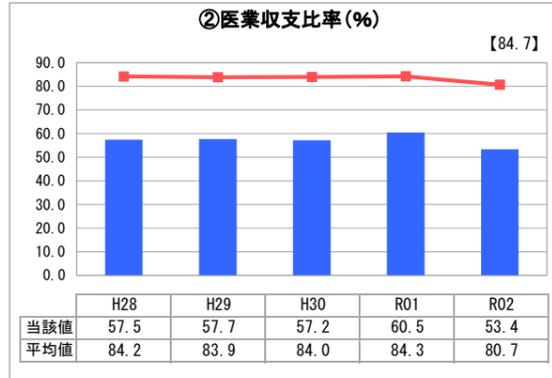
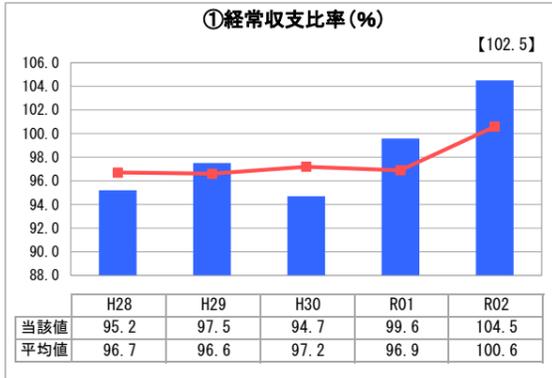
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

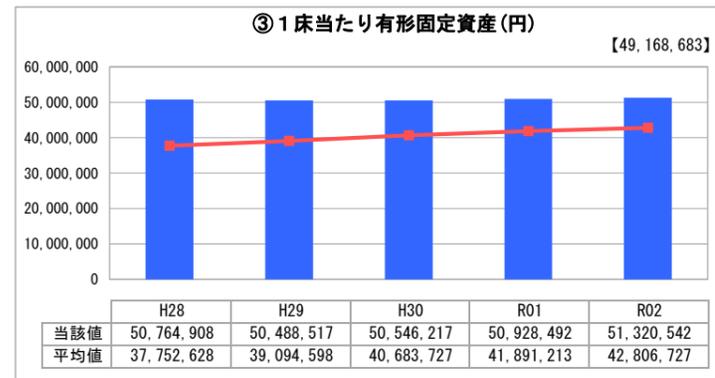
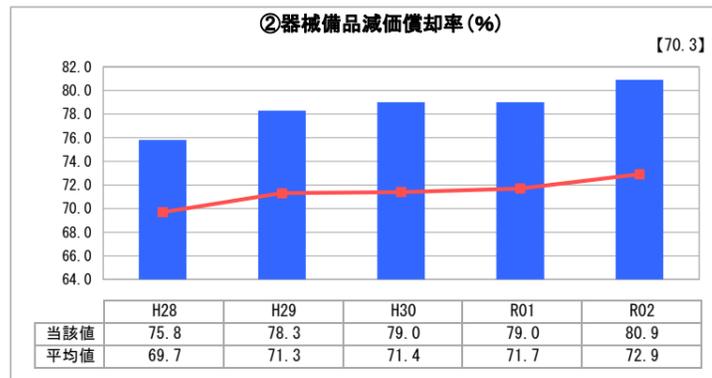
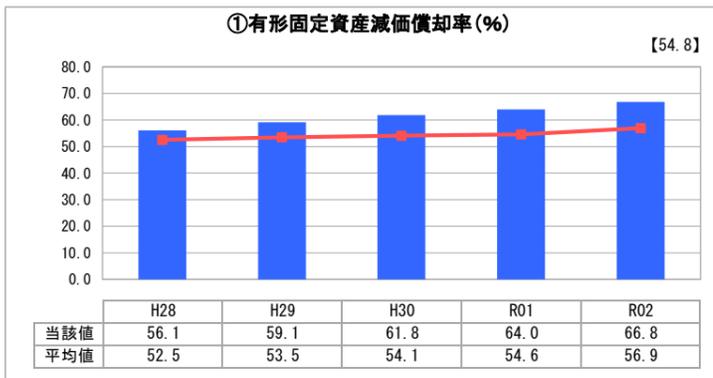
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	120
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
45	-	45

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

留萌第二次医療圏における地域センター病院として、同一圏域のセンター病院や地域の医療機関と連携を図るとともに、人工透析を実施している。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症における協力医療機関として、地域の感染患者の受入を行った。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、新型コロナウイルスの影響による入院・外来患者数が減少し収益の減少はあったものの、新型コロナウイルス感染症緊急包括交付金により医業外収益が増加し、前年度と比べ比率は大幅に上昇した。

③累積欠損金比率については、新型コロナウイルス感染症の影響による医業収益の減少により比率は上昇した。

⑤入院患者1人1日当たり収益については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により患者数は減少したものの、入院単価の高い新型コロナウイルス感染症の患者を受入れたこと等により、収益は上昇した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、有形固定資産の耐用年数を過ぎてからも使用しており老朽化が進んでいることから、前年度と比べ若干上昇している。

②機械備品減価償却率については、平成28年度の高度医療機器の更新により一旦下落し、その後は経年により上昇傾向にある。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率、④病床利用率は新型コロナウイルス感染症の影響により下落したものの、⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益は前年度と比較して、上昇傾向にあることから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、医師の確保など圏域内において必要とされる機能の充実を図り、患者数を確保するとともに、効率的な費用の執行を行う必要がある。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率ともに上昇傾向にあり、②は平均値を上回っているため、耐用年数を大幅に経過した医療機器等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道 緑ヶ丘病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,228,732	13,670	非該当	非該当	15:1

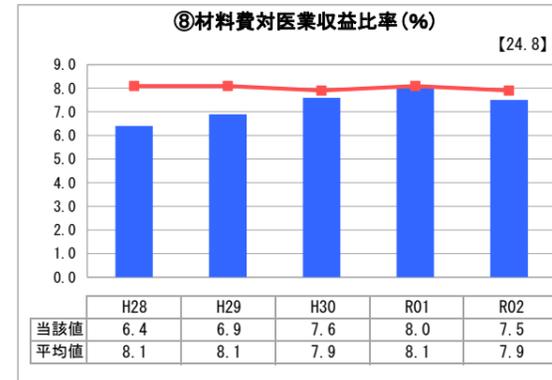
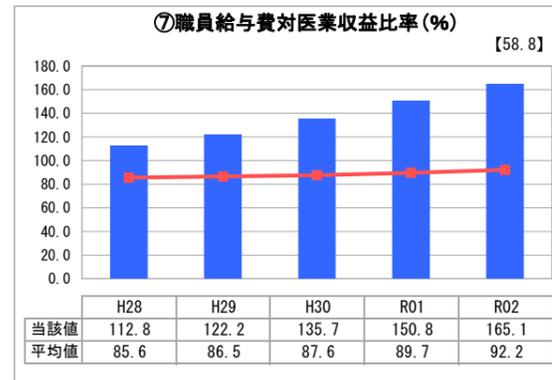
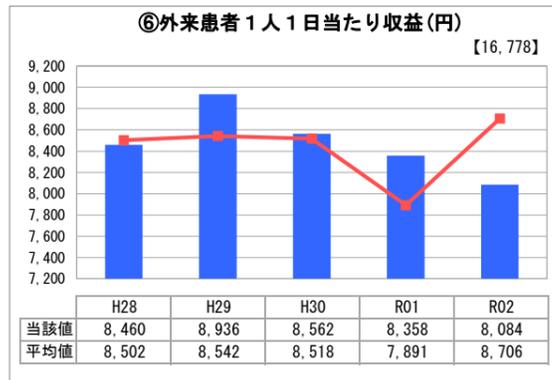
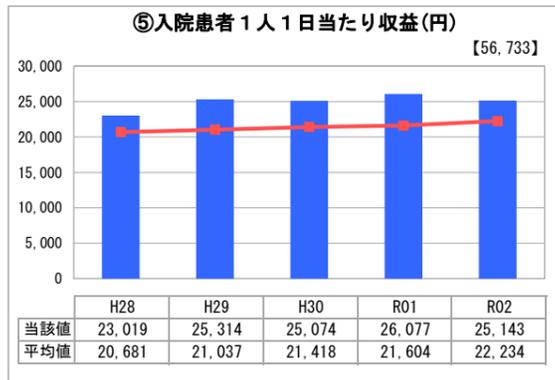
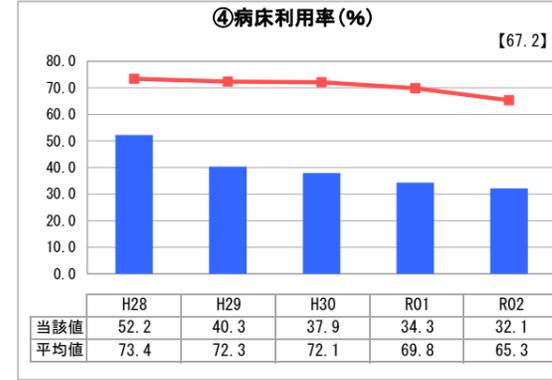
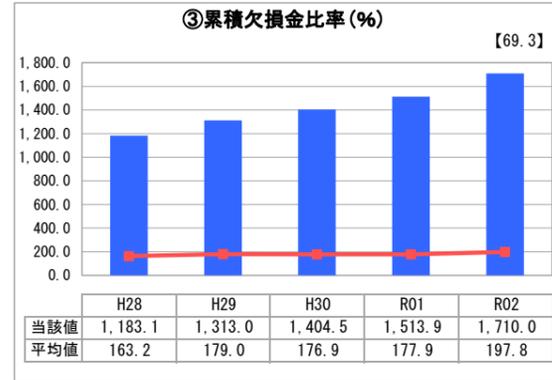
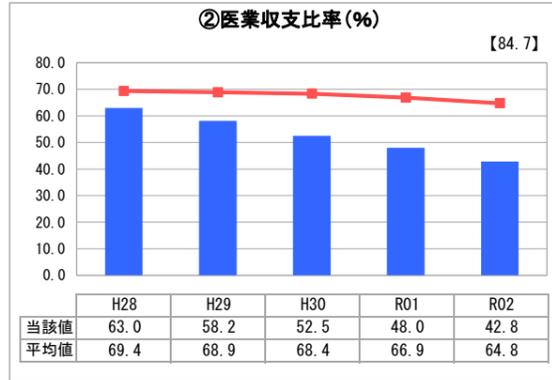
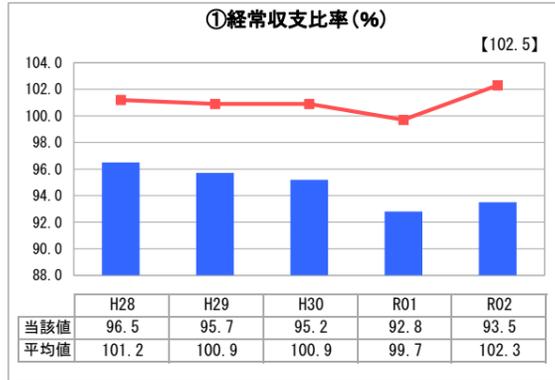
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

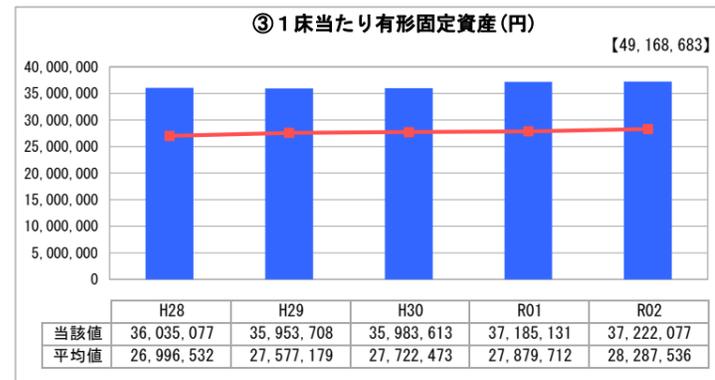
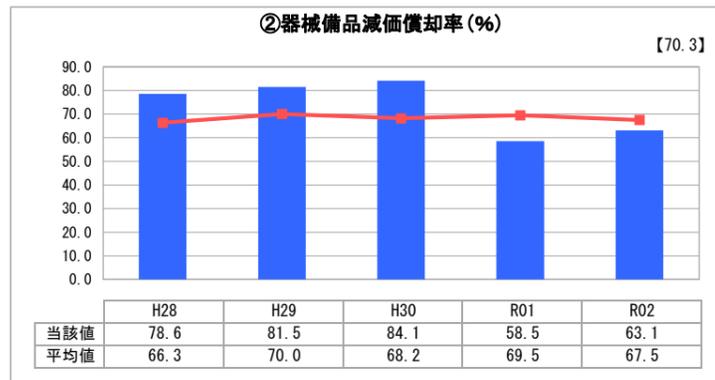
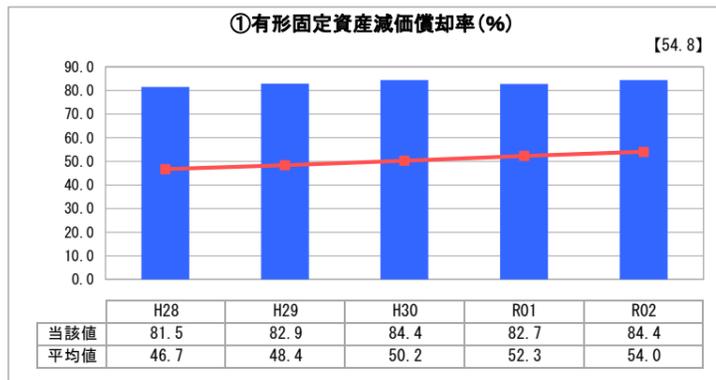
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
168	-	168
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

十勝第三次医療圏における精神科救急及び急性期医療の病院として、平成27年3月から精神科救急入院料病棟の運用を開始し、入院後の早期の地域生活への移行や、退院後の訪問看護等による在宅支援、圏域で唯一となる児童・思春期精神科医療の専門外来や専用病床を有するなど、圏域における中心的な役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、新型コロナウイルスの影響による入院患者や外来患者の減少により、医業収益の減少があったものの、主に基準外繰入である精神科病院運営費等の繰入金増加により前年度とほぼ同程度となった。

⑤入院患者1人1日当たり収益については、診療報酬の高い精神科救急入院病棟があるため、例年平均値を上回っているが、令和2年度は基準を満たす患者が減少したため収益も減少した。

⑥外来患者1人1日当たり収益については、比較的外来単価の高い成人患者の診療をする一般外来の医師数の減少により、患者数が減少したため収益も減少した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び③1床当たり有形固定資産については、耐用年数を過ぎてからも使用しており、毎年度必要最低限の更新しかしていないため同程度で推移している。

②器械備品減価償却率については、令和元年度に電子カルテシステムの更新により下落したが、令和2年度は経年により上昇した。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である②医業収支比率、④病床利用率、⑤入院患者及び⑥外来患者1人1日当たり収益は新型コロナウイルス感染症等の影響により下落した。引き続き、圏域内で必要とされる機能の充実を図り、他の医療機関との連携を図りながら患者数を確保していく。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を経過した設備等の更新を進めるとともに、患者ニーズに対応した療養環境を整備し医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道 向陽ヶ丘病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,228,732	7,074	非該当	非該当	15:1

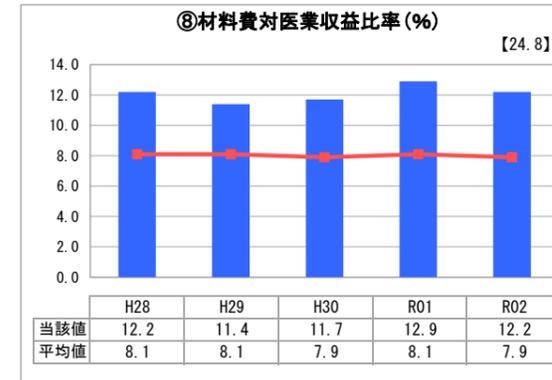
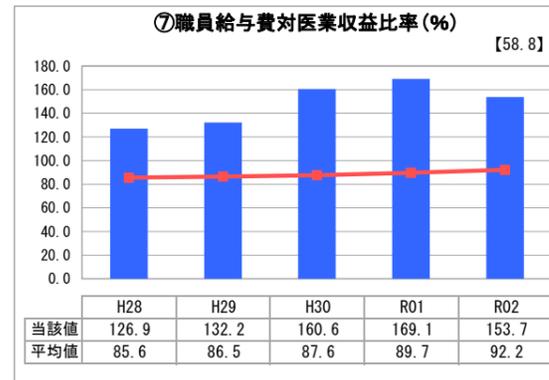
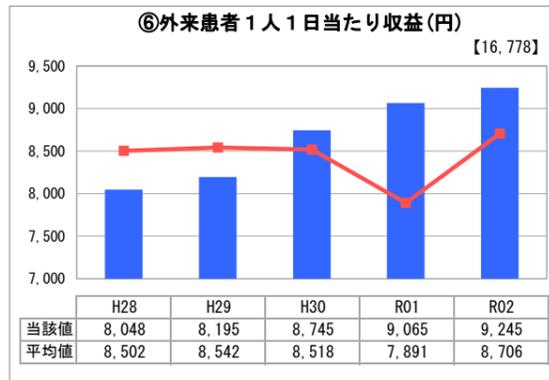
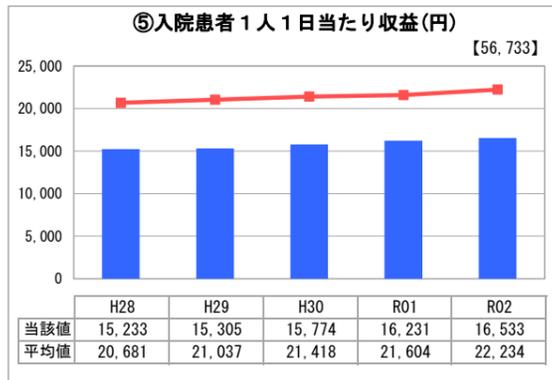
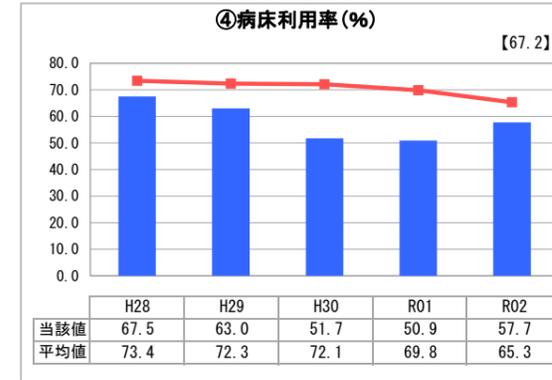
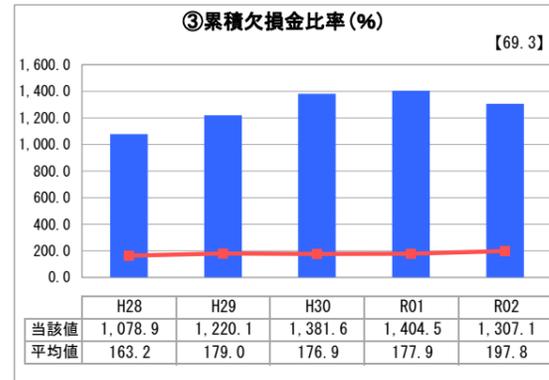
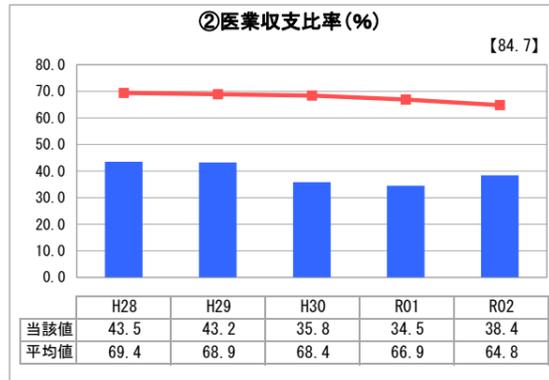
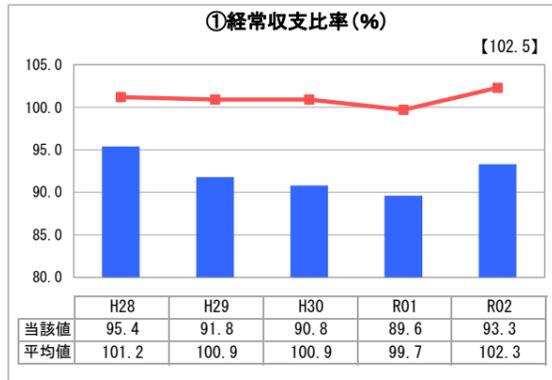
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

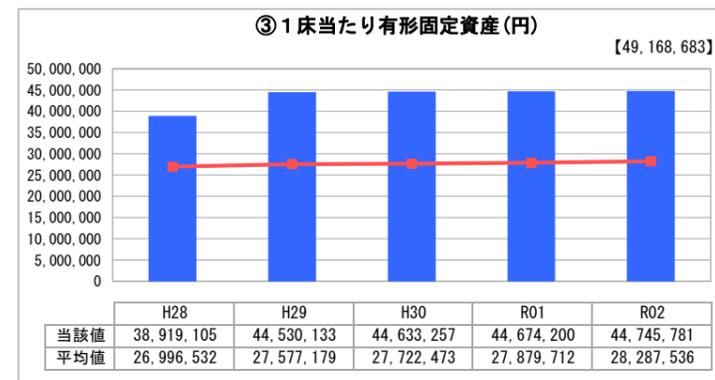
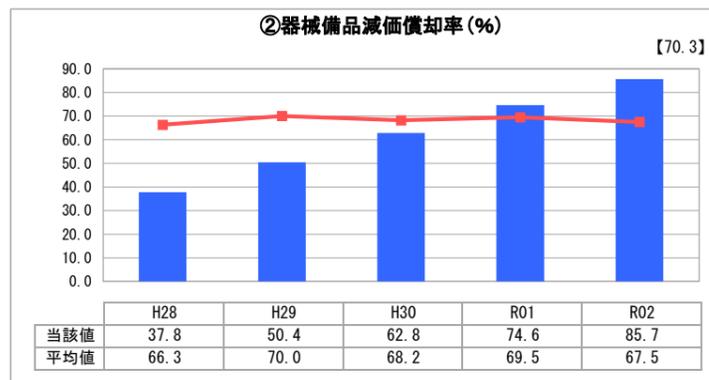
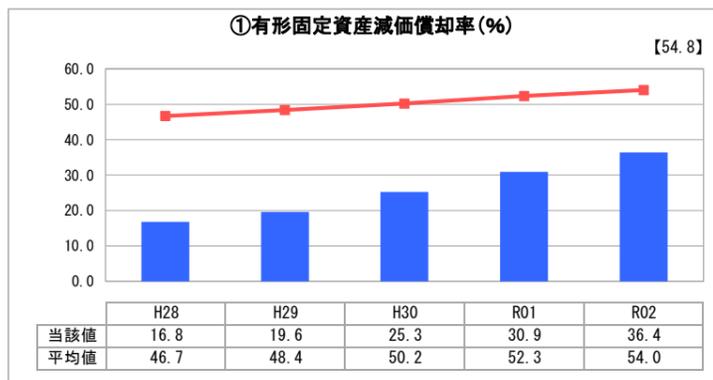
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
105	-	105
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

オホーツク第三次医療圏における精神科救急及び急性期医療の病院として、入院後の早期の地域生活への移行や、退院後の訪問看護等による在宅支援、平成26年度に開設した認知症疾患医療センターによる専門医療などにより、圏域における中心的な役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、地域の医療機関等との連携強化による紹介患者の増加により医業収益が増加し、前年度と比べ比率が上昇した。

⑦職員給与対医業収益比率については、職員給与は昨年度と同等であったが、①の理由により医業収益が増加したことにより、比率が大幅に減少した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、平成28年度以降は病院新築に伴う固定資産の計上により、上昇傾向にある。

②器械備品減価償却率については、平成28年度の病院新築に伴う医療機器の購入等により比率は低くなったが、以降は経年により上昇傾向にある。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である①経常収支比率、②医業収支比率、④病床利用率、⑤入院患者及び⑥外来患者1人1日当たり収益は、前年度と比較し上昇傾向にあり、③累積欠損金比率及び⑦職員給与対医業収益比率は減少傾向にあることから、地域の医療機関との連携強化が収益改善に効果があったと考えられる。引き続き、圏域内において必要とされる機能の充実を図り患者数を確保していき、診療報酬の適正化により収益を確保していくことが必要となる。
また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率や②器械備品減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を大幅に経過した医療機器等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道 北見病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	6	-	透	臨
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,228,732	5,378	非該当	非該当	7:1

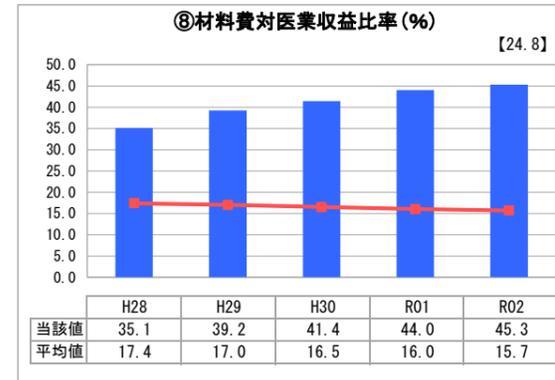
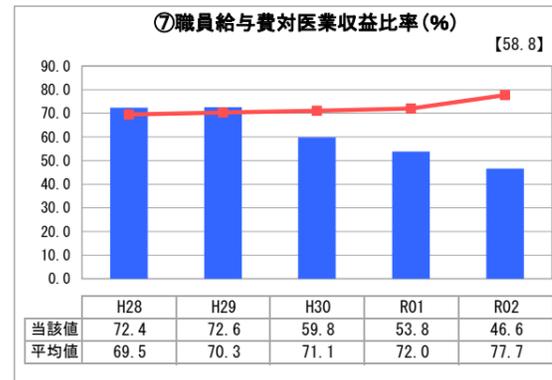
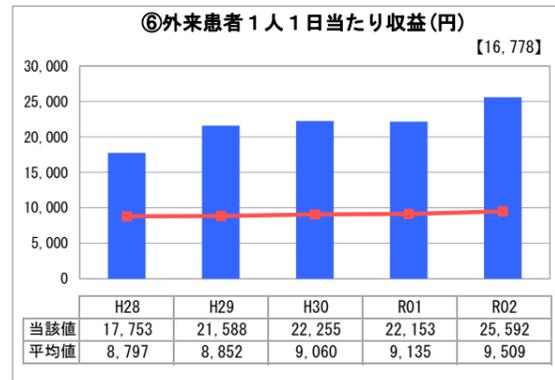
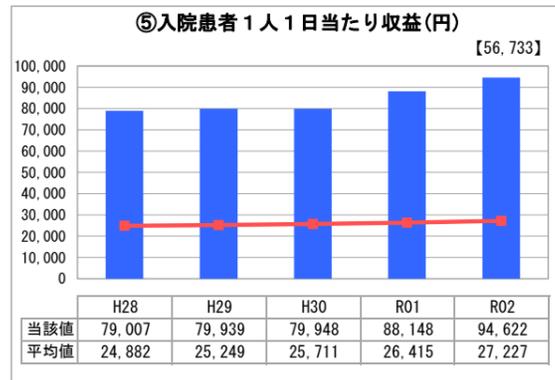
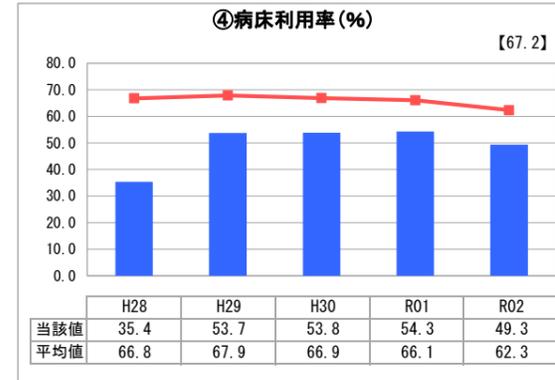
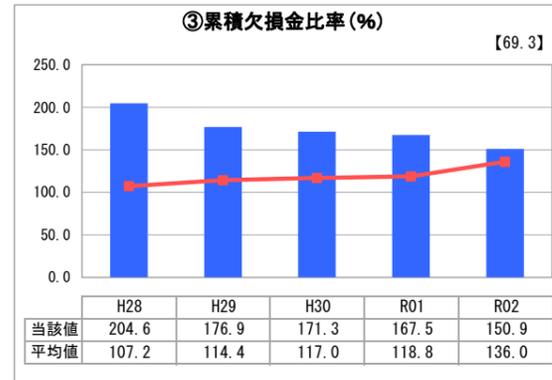
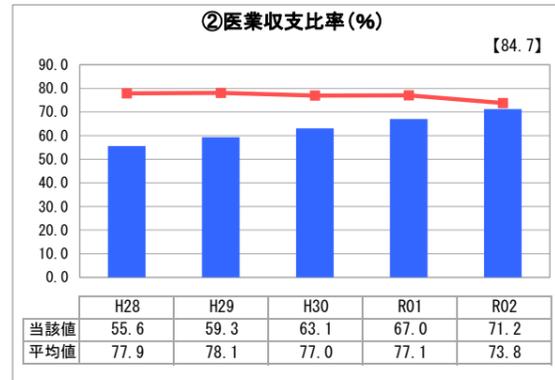
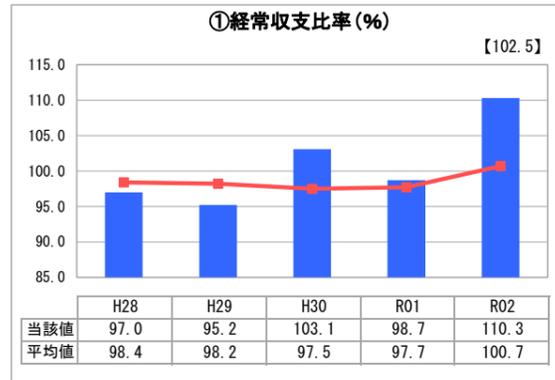
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

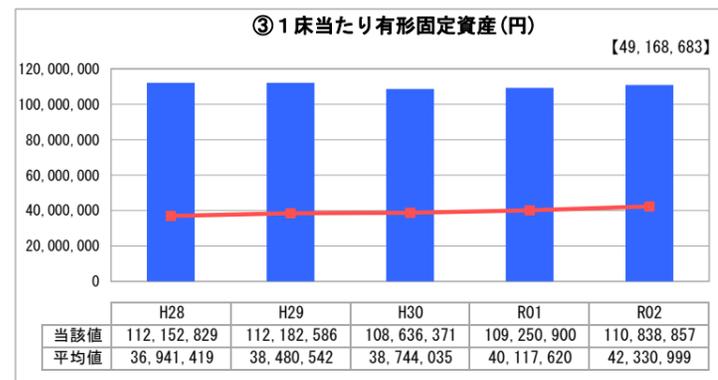
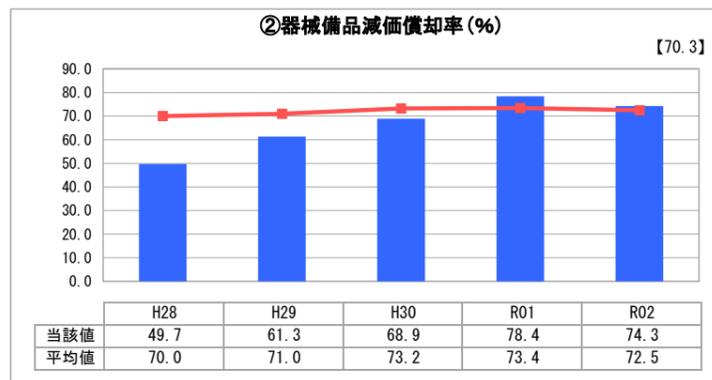
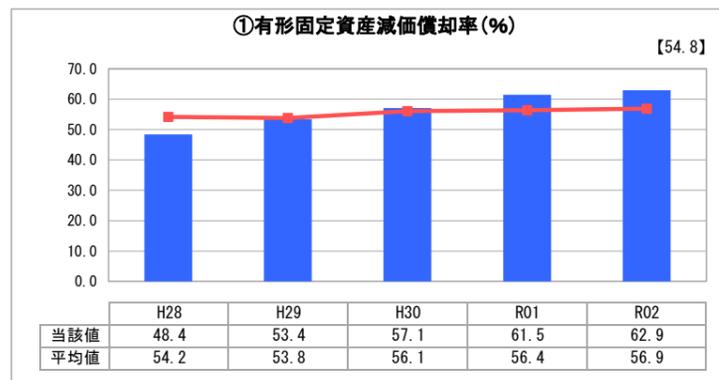
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
70	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	70
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
70	-	70

グラフ凡例	
■	当該病院値(当該値)
—	類似病院平均値(平均値)
【】	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	平成30 年度

I 地域において担っている役割

オホーツク第三次医療圏域で唯一、心臓血管外科手術を実施するなど、圏域における循環器・呼吸器疾患の高度・専門医療の中心的な役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、平成30年度から指定管理者制度を導入したことによる管理運営コストの減少により上昇した。令和2年度は新型コロナウイルスの影響による入院患者や外来患者の減少により、収益の減少はあったものの、補助金の増加により前年度に比べて比率は大幅に上昇した。

⑤入院患者1人1日あたり収益については、新型コロナウイルス感染症患者の受入や心臓血管外科の高額手術の増加により収益は上昇した。

⑦職員給与対医業収益比率については、医業収益の増加や指定管理により道からの派遣職員分の給与が日本赤十字社の給与単価になったことにより北見病院全体の職員給与費が減少したため、比率は減少した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、耐用年数を過ぎてからも使用しており老朽化が進んでいることから、前年と比べ比率はやや上昇している。

②器械備品減価償却率については、CT装置の更新により比率は下落している。

全体総括

指定管理者制度導入前と比較し、「1. 経営の健全性・効率性」の指標である①経常収支比率、⑤入院及び⑥外来患者1人1日当たり収益は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも補助金や高額手術の増加により前年度と比較し比率は上昇した。

指定管理者制度による運営を継続し、引き続き、経営の健全化・効率性について検証していく必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道 子ども総合医療・療育センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	-	I 未 訓 ガ	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,228,732	18,116	非該当	非該当	7：1

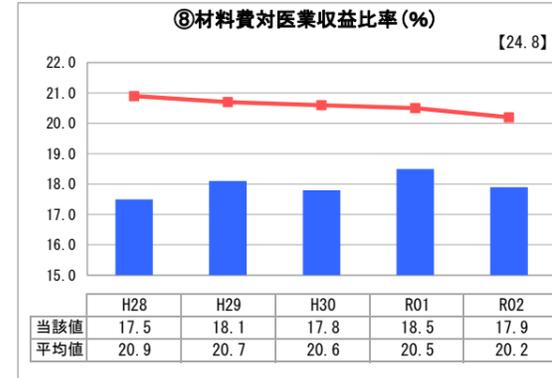
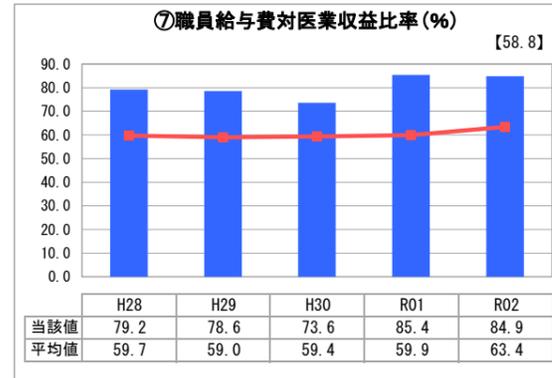
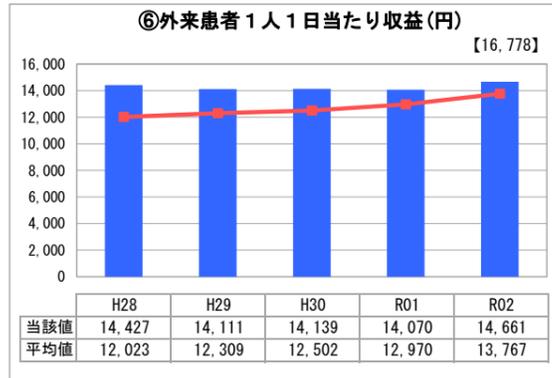
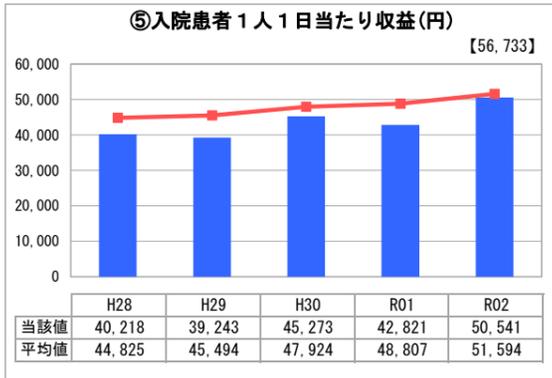
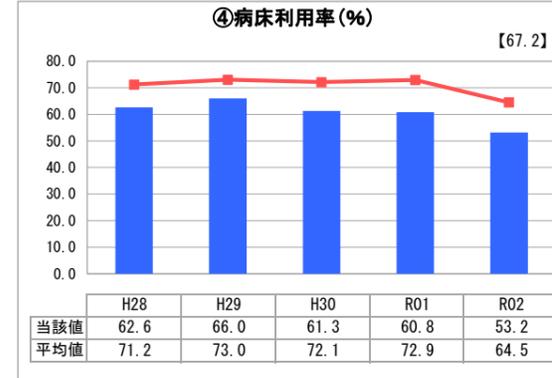
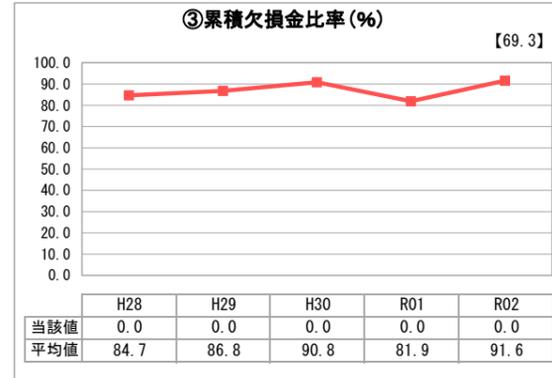
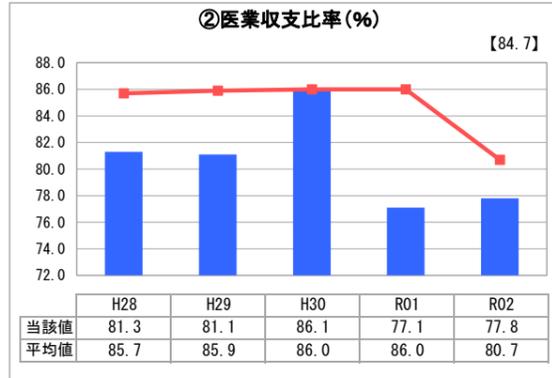
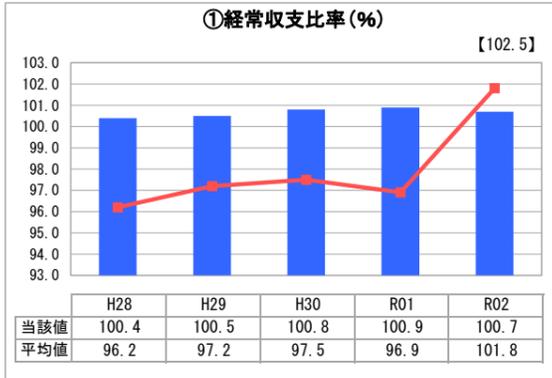
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

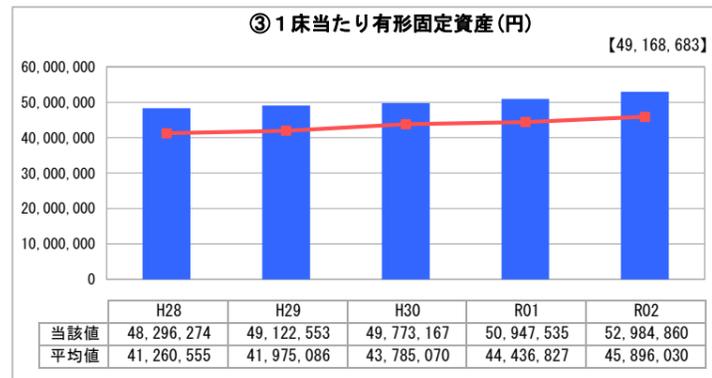
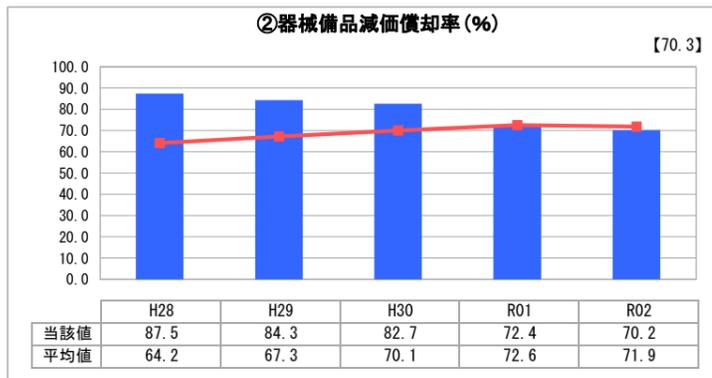
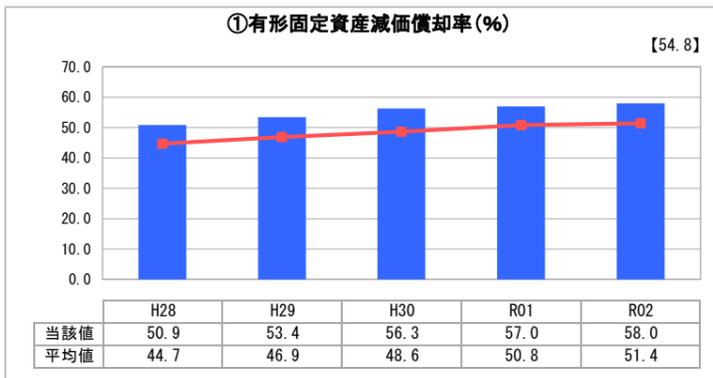
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
215	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	215
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
212	-	212

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

北海道全域を圏域としており、ハイリスクの胎児や新生児に対する特殊な周産期医療を提供する特定機能周産期母子医療センター機能、先天性心疾患等への高度医療を提供する循環器病センター機能、医療的リハビリテーション等を提供する総合発達支援センター機能を有しており、医療部門と療育部門が連携した複合的な役割を担っている。

令和3年度においては、感染症ワクチンの集団接種に医師等を派遣した。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数や外来患者数の減少に伴い収益は減少したものの、補助金や繰入金の増加等により前年度とほぼ同程度となっている。

④病床利用率については、新型コロナウイルス感染症予防のため入院抑制等を実施していたことから、比率は減少した。

⑤入院患者1人1日あたり収益については、新型コロナウイルス感染症の影響により大学病院等から単価の高い心臓血管外科手術を要する患者の紹介があったことから、収益は大幅に上昇した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、対応年数を過ぎてからも使用していること、毎年度必要最低限度の更新であることから、同程度で推移している。

②器械備品減価償却率については、器械備品を多数新規購入や更新をしたことから、前年度と比べ比率は下落した。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」の指標である①経常収支比率、②医業収支比率及び⑤入院患者1人1日当たり収益は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも補助金や高額手術の増により前年度と比較し上昇傾向にあることから、感染院内対策を実施しつつ、更なる診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や患者ニーズに対応する体制整備を進めながら患者数を確保していくことが必要となる。

また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を大幅に経過した設備等の更新を進めながら、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。